混合保育

混合保育って何だろう？と思われる方もいると思います。愛星保育園では、その子の成長発達に合わせてその子が安心できる環境であれば自分のクラス以外で過ごしたり、「０歳児だから２歳児、幼児とは（成長発達が違い過ぎるから）過ごせない」ではなく、年上児のしている事に興味を持っているのであれば、クラスを分け隔てるのではなく、保育者が環境の安全を確認した上で判断をし、子どもの主体性を大事にした保育をすることと考えています。

今年度は５月にコロナが第５類となり、異年齢児同士の交流を積極的に行える環境になりました。（感染症が流行った際にはクラス同士の交流は控えるようにしています）そのような中、話し合いながら進めてきた乳児・幼児組の混合保育の取り組みをお伝えします。

幼児組（3.4.5 歳児）

幼児組は同じフロアで過ごしていることもあり、３・４・５歳児との交流が行いやすい環境ではありましたが、２階に上がったばかりの３歳児は幼児室のパーテーションを開けても自分たちのクラスの保育室内で過ごすことが安心した場所となり、隣の保育室に移動することが少なく、年上児と過ごすことに少し緊張した姿の子が多く見られました。４・５歳児もその様子をそっと見ている子が多く見られていました。その為、まずは幼児組内で異年齢児同士で散歩に行く計画を多く立て、触れ合う機会を多くする事にしました。すると一緒に過ごすことの楽しさを感じ、互いに親しみを感じるようになってきました。

異年齢児間での信頼関係が少しずつ出来てきた夏。午後の自由遊びの時間に異年齢児と遊ぶ事も多くなってきた子ども達。その仲がさらに深まれば…の保育者の一案からルールのある室内遊びを取り入れていると子ども達のやる気にも繋がり、運動会では３・５歳児でパラバルーンを、４・５歳児で玉入れを行う事になりました。運動会以降では年上児への尊敬と憧れの思い、年下児への優しく関わろうとする心の成長を子ども達の姿から大きく感じられえるようになり、その思いが少しずつ乳児組の小さなお友達への関わりの中にも繋がっているように感じます。今後も子ども達の姿から保育者同士で話し合い、その年に合わせた混合保育の仕方を考え、心の成長に繋がるよう、取り組んで行きたいと思います。

乳児組（0.1.2 歳児）

乳児組は新しい保育者３名を迎えたこともあり、毎月１回の乳児組保育者話し合いの際に混合保育についても触れ、経験者から今まで取り組んできたことや今月の取り組みを一緒に考え、混合保育への理解を深めながら子ども達に関われるようにしてきました。

特に乳児組は日を追うごとに、成長に変化が見られます。今年度の０歳児は秋過ぎになると歩けるようになった子とまだ午前寝をする子の成長の差があり、どのように散歩に出掛けるか担任も悩みました。そんな中、乳児組全体で話し合い、０歳児が１歳児と同じ散歩先に出掛け、関わる保育者が多くなれるようにしようということになりました。そうすると１歳児の遊びを見て真似て、０歳児の子が後を追って走ったり、同じように葉っぱを拾ってごっこ遊びを真似るなど、「見て学ぶ」ことにも繋がっていました。また、１歳児の中にも２歳児と散歩に出掛けることを喜ぶ姿があり、体力や理解力に合わせた散歩や室内遊びを行えるように保育者が計画・話し合いを進めてきました。

コロナが５類になり、幼児組と２歳児は散歩を中心に交流を多く持ち、０．１歳児は雨の日の午前中、夕方の時間、保育者と一緒に幼児組に遊びに行きました。そうすることで玄関や隣の広場で会うと自然と手を振り合ったりと年上児に親しみをもつことを楽しんでいる姿を見て、異年齢児の関わりは人との繋がりを多くする機会に繋がることを実感した１年になりました。

給食室より

栄養士　伴田　智香（株式会社メフォス）

委託業務を担当してから二年目となり、お子様達と共に成長していけることを心より嬉しく思っております。この二年間、私たちは皆さまの信頼を頂きながら、お子様たちが安心して食事を楽しむことができるよう工夫し、栄養バランスの取れた献立を提供してまいりました。

今年度保育園のリニューアル工事に伴い、給食室が３階に移り、新たに導入されたスチームコンベクションオーブンは従来の調理方法と比べ素早く均一に調理することが可能となりました。新しい設備を活かし、今までになかったメニューや新しい取り組みを行うことができました。

今年度の新しい取り組みの一つとして、普段行っている食育に加え郷土料理を献立に取り入れた様々な地方の郷土料理・伝統料理のお話をしてまいりました。保育園の給食という限られた中ではありましたが、北海道のちゃんちゃん焼きや宮崎県の冷や汁など、地方の様々な料理を紹介することができました。

地域の郷土料理を取り入れた食育プログラムは単なる栄養教育だけでなく、実際に食べるという経験を通じて、地域の文化や伝統を学ぶ良い機会でもあります。沖縄の郷土料理を取り入れた際には、さとうきびを実際に触って齧る体験を通じて、砂糖の精製方法や地元食材の大切さを学べたと思います。また食のお話しだけでなく、方言を使った挨拶や料理名の紹介など、地域の文化に触れることで食事への興味が深まったと感じております。子ども達に地域の伝統料理の大切さを伝え、受け継いでいくことは、地域のアイデンティティや文化を守り、その素晴らしさを次世代に伝える我々大人の大切な使命だと考えております。

りんごの様々な種類の食べ比べや、米と玄米との食べ比べ等の体験型食育によって、子ども達に食べ物の香り・触感・味わいの違いを実際に体験しながら学ぶ機会を提供出来ました。また、自分たちが育てた野菜を使った献立では子ども達が食材の成長過程や農作業の大切さを学び、みんなで育てた苦労や喜びを食事として味わうことができました。これらの体験を通じて、子ども達は健康的な食生活を送ることの重要性を理解し食に対する興味や関心を高めることができたと感じております。

先生方をはじめ保護者の皆様には、このような新しい取り組みに対するご理解とご協力に深く感謝申し上げます。

お子様たちがより健康的で美味しい食事を楽しめるよう、これからも務めてまいります。

健やかな成長を祈って

看護師　宇山真紀子

新しい保育室のパーテーションに窓が付き、中の様子をうかがえるようになりました。入ろうとすると０歳児と目が合いニコっと微笑まれます。１歳児のＡちゃんは去年からエプロンのミッキーマークを覚えていてくれて、会うと必ず探します。個々の関わりを大切にし、日々変化を見逃さず子ども達が安心して関われるように心掛けていますが、幼児組の子どもたちは私を見つけるといつも怪我や健康状態を教えてくれます。

日々子どもたちの様子から分かることも多いのですが、保育園でも健診の機会は大切にしています。特に区で行われる３歳児健診では専門家による検査があり、今年度は見え方についての指摘を受ける子どもが増え治療に繋がっているのでお勧めです。早期発見早期治療は大切で、遮蔽具や眼鏡を使用し視力が改善されたという報告を、半年くらいすると聞くことが多いです。視力が作られる今が大切であることを心に留め、姿勢・目つき・態度を観察し、明るさの調整、外での活動を増やすこと、健康教育などで微力ながらも目の健康を守っていきたいと思っています。

５月に新型コロナウイルス感染症が５類となりましたが、流行は繰り返され子どものいる家族では全員がかかることもしばしば聞かれました。コロナ禍、過度の衛生環境で子どもが免疫を獲得できず以前とは感染症の流行状況が変わってきています。当園では夏から年内アデノウイルス感染症が続いて発生していました。中には続けて違う型のアデノウイルスに罹ることもあり、ウイルスの生存戦略に驚かされます。幼いこの時期に免疫を獲得していくことは大切なので防げる感染症はワクチンで免疫をつけ、感染症に負けない身体を作っていって欲しいです。

感染予防の基本は手洗いなので、今年度も力を入れ毎月幼児組の健康教育できらきら星の曲に手洗いの歌詞を付けて「愛星保育園手洗いの歌」とし行いました。３歳児に進級したばかりのころは、真似をして行ってみることも嫌がり黙って見ていた子が数名いましたが、段々と減りついに全員が参加してくれた時は子ども達の成長に感謝しました。もちろん４・５歳児は歌いながら手を動かし、実際水で洗う時には丁寧に洗う子もいます。子どもの変化から自分の想いや行動に気付かされることも多く、他者は自分の鏡と実感。子ども達が美しく映るように、自分も磨きたいと思う日々です。

父母の会より

２０２３年度は、５月に「コロナ明け」を迎え、久しぶりに思う存分交流できる一年になりました。今年度の主な活動は、５月交流会、６月総会、１２月お譲り会、３月卒園・進級お祝いの準備、といったところで、web とリアルを組み合わせて実施しています。中でも交流会、お譲り会は、多くの保護者のみなさまにご協力、ご参加いただき、大変賑やかなひと時になりました。

また、おやじの会では、週末におやじ有志たちと上田先生がクッキングし、子供たちと共にランチを楽しむ様子を動画配信しました。料理の手際がよく、とても美味しそうでみんな完食していましたね。

父母会では、対面打合せはほぼ行わず、主に LINE で連絡を取りあって、都度動ける方々、得意な方々で役割分担して、企画を進めています。みなさんご多忙ながらも本当にてきぱきと進めてくださいます。他学年の子供たち、保護者の方々と知り合うきっかけにもなりますので、お気軽にご参加いただけたら幸いです。各クラスに役員さんがいますので、ぜひお声かけください。小さな交流の機会を通じて、子供たちだけでなく、保護者の方々も、愛星保育園での日々を楽しんで頂けたらと願っています。

岡　万樹子

おやじの会より

愛星保育園との関わりは娘の頃から合わせると早いもので凡そ８年になります。コロナ前のおやじの会は、新年の餅つき大会、秋祭りの焼き鳥出店、週末に貸し切りバスで近郊の大公園にみんなで遊びに行ったりと、手広く活動してきました。

コロナによって活動が一旦リセットとなり、コロナ明けで私がバトンタッチを受けることになったのですが、色々と悩みすぎて活動が少なかったことを反省しています。少ない活動の中でも、親子クッキング動画撮影や公園バーベキューで楽しく過ごす子供の顔を見て、家庭で見るものと違った子供の成長を感じたお父さん方も多かったのではないでしょうか。

いつの時代もおやじの会の良いところは、おやじと子供が一体となって楽しめる雰囲気があるところです。来年度以降も新しい形でおやじの会が発展していくことをお祈りしています。サポートいただいた皆様にはこの場を借りて御礼を申し上げます。ありがとうございました！

おやじの会　会長　渡辺啓

園舎の大規模修繕工事を行いました

理事、職員で構成された「施設整備検討委員会」を 2014 年に設置し、建築士の方にも入っていただきながら、教材室を保育室にしたり、0 歳児 2 歳児保育室の場所移動など園内の小規模の改修を行ってきました。職員からのアンケートを取り、今までの保育を見直すことで大きな工事が必要であると判断をし、2020 年「大規模改修工事検討委員会」と名前を変え、園舎の大規模修繕工事をするために話し合いを重ねてきました。2022 年に設計監理者の選定を行い、施工業者が決まり３月から 12 月まで約９か月間をかけ、保育園内外の大規模修繕工事を行いました。保育・給食を止めることなく運営しながらの工事でしたので、安全を第一に土・日曜日を重点的に行っていきました。20 年間過ごした園舎には大切な宝物もそうでないものもたくさんあり、まずは大掃除。いるものいらないものの整理から取り組みました。業者の方と毎週打ち合わせをしながら、工事の予定と園の予定を擦り合わせ、いくつもの工期に分けて順番に工事を進めていき、12 月 17 日に無事落成式を済ませることができました。工事の過程をご紹介します。

★3 階の研修室がみんなのへや（一時保育室）になりました。

他の保育室を工事する間、その保育室を使っているクラスの子どもたちの保育をこの保育室で行うようにしてきました。

★3 階工事４月～5 月★

（まもりぼしのへや）

（廊下）

（給食室）

３ 階に給食室を作り、土・日曜日で引っ越しをすることで、給食を止めることなく、工事を行うことができました。また３階にはまもりぼしのへや（相談室）・食料保管庫・給湯室などがあります。

★2 階保育室★4 月末～5 月中旬・7 月中旬～8 月末

廊下・みんなのへやを壊し、幼児保育室としました。広く大きな保育室をパーテーションで区切ると３つの保育室となり、保育の内容によって環境を自由に変えることができます。

★1 階保育室★5 月末～7 月・8 月末～10 月上旬

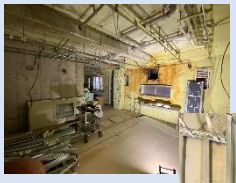
（1 歳児室）

（0 歳児室）

（2 歳児室）

乳児保育室は全室床暖房を完備し、トイレは温便座、暖房が付きました。可動式の棚を各自のロッカーにしていましたが、備え付けのロッカーを作る事で保育室全体が広く感じるようになりました。

★せんせいのへや（事務室）★5月～7 月中旬



（更衣室）

給食室を事務室に作り変えました。今までは３階に事務室がありましたが、工事の間は２階テラスに仮設事務所を作りました。職員の休憩や会議などはテラスで青空の下、行っていました。玄関から事務室を見ることができるようになり、保護者の方も気軽に声をかけて頂きやすくなりました。また防犯の面でも安心になりました。

★エントランス・外回り★10 月～11 月末

（絵本コーナー）

天井に木材を使用することで、雰囲気がガラッと変わりました。今まで外に出ていた靴箱をすべて玄関内に設置しました。

保育サービスの「質」は働く人で決まる！

法人理事長　結城康博

今年度は、当園の大規模改修に伴いご協力いただき深く感謝します。おかげさまで園も新しくなり、よりよい環境でお子さん達が過ごせるようになりました。深く感謝します！

しかし、保育サービスは建物（ハード）が良いだけでは「質」は向上しません。やはり「ハード」よりも「ソフト」、つまり、お子さんと関わる保育士等の専門職次第でしょう。私は、理事長という「職」に従事していますが、普段は淑徳大学社会福祉学科の教授として「社会福祉学」を研究・教育しています。

そこで、福祉サービスの「質」について思うのですが、必ずも「ハード」が良くても、「ソフト」が伴わなければ良いサービスは提供できないと考えます。つまり、たとえ「ハード」が古く充分でなくとも、その代わり「ソフト」が充実していれば「質」の高いサービスが提供できるということです。

そのため、当法人（愛星保育園）としては、法令水準以上の保育士等を配置して「余裕」をもった「ソフト」面の整備に努めています。働く保育士等が「休みが取りやすく」「余裕をもって働ける」といった環境整備であれば、自然と保育サービスの「質」も向上すると考えます。もちろん、研修といった「研鑽」も重要ですが、同時に働く人の環境整備も不可欠という経営方針で事業運営しています。

残念ですが、私は理事長として、毎日、当園に出勤しているわけでなく、お子さん達の「様子」を見ることはできません。「利用者（お子さんや保護者）ファースト」は園としての理念であり当然のことですが、そこで働く従業員のことも最大限考えていくことが「利用者ファースト」に繋がるとも思います。

私は、職員会議などで保育士等の元気な様子を垣間見ることで、良質なサービスに繋がっていると判断します。直に、お子さん達の様子を見かける機会は限られますが、職員の表情や笑顔をみることができれば、きっとサービスの「質」も向上していると信じています。

保育サービスは、そこで働く「人」次第といえます。決して「ハード」が良くても充分ではありません。今回、大規模修繕によって新しい園になりましたが、さらに保育士等の働く環境に努めていきたいと思います。